学校経営推進費　評価報告書（最終）

１．事業計画の概要

学校名	大阪府立光陽支援学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	・支援学校における児童生徒、保護者の学校満足度の向上 ・支援学校における地域連携と外部への情報の発信
計画名	「光陽 GO GO プロジェクト　～未来の扉を自分で開こう～」

２．事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の中期的目標	●「学校経営推進費」を受けた年度（R3）　【事業名】　「光陽 GoGo プロジェクト～未来の扉を自分で開こう！～」 ＊導入機器→「スパイダー」「ベビーロコ」「スヌーズレン関連機器」「SDGs 関連取組の陶芸・七宝焼道具」等。 ２．【実践】質の高い授業実践の実現（授業実践力の向上）～主体的な学びを大切にし、児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた授業実践ができる学校～ （３）自立活動における専門性の向上を図るための取組みを行う。（光陽 GoGo プロジェクトの取組み含む） ・外部人材等を積極的に活用し、初任者や経験年数の少ない教員への指導も含めた「自立活動の専門性の向上」のための取組みや検証を行う。 ・スパイダー・移動支援機器・スヌーズレンや GIGA スクール構想に伴う１人１台のタブレット等ＩＣＴ機器を積極的に活用し、自立活動の指導の幅を広げ、充実させる。 ※上記（３）の取組みにより、「光陽 GoGo プロジェクト」の「自立活動を中心とした実践」における学校教育自己診断関連質問項目を１年め（R3）・２年め（R4）・３年め（R5）ごとに新設する。各年度の新設項目の肯定的回答率について、教職員・保護者ともに、令和３年度 65%以上(達成済)、令和４年度 70%以上、令和５年度 75%以上とする。〈R3 教職員 90% 保護者 74%〉 ４．【発信】多様性社会の推進と実現（発信力の向上）　～地域に開かれ、お互いの学びを発信し、多様性社会の実現に使命が発揮できる学校～ （３）児童生徒・教職員が光陽支援学校の取組み・実践・自らの学びを積極的に発信し、「すべての人が自分らしく生きていく社会の実現」に向けて使命を発揮する。 ・教職員は、自分たちの実践のまとめについて、「わかりやすく伝える力」（プレゼンテーションスキルや言葉の精選等）を強化し、校内外で発表の機会を作り、発信する。 ・ホームページ等の充実を図り、何度もアクセスしたくなる内容・更新ペースを検討し、学校の「見える化」を図る。 ※上記（３）の取組みにより、「光陽 GoGo プロジェクト」の「SDGｓ拠点校としての実践・発信」おける学校教育自己診断関連質問項目を１年め（R3）・２年め（R4）・３年め（R5）ごとに新設する。各年度の新設項目の肯定的回答率について、教職員・保護者ともに、令和３年度 65%以上(達成済)、令和４年度 70%以上、令和５年度 75%以上とする。〈R3 教職員 94% 保護者 89%〉
事業目標	**「光陽 GO GO プロジェクト　～未来の扉を自分で開こう～」** ①　自力移動が難しい児童生徒が多い本校において、「移動支援機器（ベビーロコ）」や「スパイダーシステム」を活用し、「自分で動く」事の楽しさを感じ、「自分のできる

	こと」を広げて、運動面・認知面・情緒面の発達を促し、コミュニケーション能力を向上させ、自己表現力を育む。 また、スヌーズレンルームを活用し筋緊張を緩めることで移動支援機器・スパイダーの効果を最大限に引き出す。 ② 「SDGs」の取組みの一環として、「poRiff」（ポリフ＝ポリ袋を活用したリサイクル作品」）や「七宝焼きでのSDGs作品」等を作り、移動支援機器を活用した交流活動での配付や地域での販売活動を通して、自立と社会参加に向けた充実を図る。 地域小中学校や高等学校・地域住民との交流を通して相互に高め合い、多様性社会の推進に使命を果たし、児童生徒・保護者の満足度向上に繋げる。
整備した設備･物品	・ ベビーロコ３台 ・ スパイダー１台 ・ スヌーズレンルーム物品 ・ 電気炉２台等、七宝焼物品、陶芸物品
取組みの主担･実施者	主担： 首席・自立活動部長・支援相談部長・支援教育コーディネーター・ICT教育部長 実施者： 全教職員
本年度の取組内容	・昨年度より本校のセンター的機能を果たすべく、「光陽GoGoプロジェクト」の取組みを発信するため「光陽GoGoフェスティバル」を開催した。今年度は、学校全体の取組みとして開催し、体験等のブースを16ブース（昨年度10ブース）に増やし、参加対象を在校生・保護者・卒業生・校区内の小中学校関係者・福祉事業所（昨年度、福祉事業所は対象外）に広げ開催した。 ・地域のSDGs拠点校として３年連続で「“届けよう服のチカラ”プロジェクト」（（株）ファーストリテイリング主催）に参加し、取組みを発信しながら近隣校と協働して子供服を集め、国連を通じて海外の難民へ服を届けることができた。集めた枚数は、過去最高の合計1565枚となり大きな成果を上げることができた。 ・全国ボッチャ選抜甲子園2023に参加した際、全国の対戦校へ生徒が作成した「七宝焼きアクセサリー」をプレゼントすることで、さらに交流を深めることができた。 ・移動式のスパイダー（重力免荷システム）２台めを作成し、運動会で使用したり自立活動以外の場面でも活用したりして、児童生徒の可能性や活動の幅を広げることができた。また、自立活動部による「スパイダー研修会」を校内行い、年３回の「スパイダー実践報告会」で活用事例を教員間で共有することができた。 ・令和６年３月に外部講師によるベビーロコ講習会を行い、活用事例や取組み方法を教員間で共有することができた。 ・「光陽GoGoプロジェクト」の活動を「光陽GoGo通信」としてNo.12～No.13を発行し、保護者へ発信することができた。
成果の検証方法と評価指標	① 学校教育自己診断アンケートにおいて自立活動に関する肯定的評価（保護者・教職員）が80%を超える。 ② 学校教育自己診断アンケートにおいて交流及び共同学習に関する肯定的評価（保護者）が88%を超える。 ③ 「SDGs」の取組みを含めた発信力について、学校間交流校および公開研修参加者のアンケートで肯定的評価85%以上。
自己評価	【学校教育自己診断アンケート】 ・自立活動に関して導入した物品の活用及び実践の発信についてのアンケートにおける、肯定的評価 保護者80%・教職員99%・・ （〇） ・交流及び共同学習に関するSDGｓプレーヤー、SDGｓ拠点校としての取組みについてのアンケートにおける肯定的評価 保護者88%・教職員98%・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ （〇） 【光陽GoGoフェスティバルの取組み】 ・学校間交流校および公開研修参加者のアンケートにおける肯定的評価100%・・・・・ （◎）

	［参加者］102 組 260 名（昨年度 51 組 111 名） ※うち、地域の学校関係者が 30 組、福祉事業所が 22 組 ・アンケート結果 ◇光陽 GoGo フェスティバルに参加した満足度をお答えください。 とても満足…87%　　やや満足…13% ◇また光陽 GoGo フェスティバルに参加したいと思いますか。 参加したい…94%　　わからない…６% ・記述式のアンケート内容も肯定的な内容が多く、「光陽 GoGo プロジェクト」の取組みを発信するとともに、本校のセンター的機能を果たすことができたと考える。 ・「光陽 GoGo プロジェクト」の一環として、３年連続で「“届けよう服のチカラ”プロジェクト」に参加し、PTA や交流校とも協働し、国連を通じて海外の難民へ 1565 枚の服を送ることができた。
事業のまとめ	①『仲間と共に SDGs プレーヤー』 ②『世界に広がれ！すご技コミュニケーション』 ③『地域の SDGs 拠点校へ』 上記３つの柱を軸とした「光陽 GoGo プロジェクト」を通して様々な実践に取り組んできた結果、普段は受け身になりがちな本校の児童生徒自らが、発信者となることで主体的な学びにつながり成長していく過程が見られた。 また、「“届けよう服のチカラ”プロジェクト」や「光陽 GoGo フェスティバル」を通じ、地域を巻き込みながら繋がり、全員が輝く社会を作る活動の一端を担うことができた。 今後は、３年間の取組みだけで終わるのではなく、アップデートを繰り返しながら無理のない継続性のある取組みを続け、児童生徒の活躍する場を広げたいと考える。 ※令和６年度も継続し、「“届けよう服のチカラ”プロジェクト」「光陽 GoGo フェスティバル」に取り組むことが決定している。